

大成ロテック

加治川案件を選定

中小水力発電の初弾

大成ロテックは、中小水力発電事業の初弾案件に、新潟県新発田市を流れる加治川流域で計画中の案件を選定した。同社は2018年から中小水力発電の事業化を目指して取り組んでおり、ことし4月には営業本部に環境エネルギー部を創設。全国の候補地の調査を進める中で、同社の

創業者である大倉喜八郎の生誕の地である同市の案件を初弾案件に選定した。主にアスファルト合材製造時に発生するCO₂をニュートラル化すべく、今後さらに各地で事業化を加速させる。

西田義則社長は9月25日に同市の下妻勇副市長を表敬訪問し、「事業化に向け新発田

市、関係各所と協議を重ねており、加治川漁協にも支援・協力をいただいている」と伝えた。

続いて、石井修加治川漁業

協同組合長を表敬訪問し、事業化に向けた協力への謝意を述べた。石井組合長は、「CO₂削減を目的とした再生可能エネルギーの採用を評価しており、中小水力発電事業には賛同の立場をとっている。

地元企業とともに加治川流域発展への寄与を期待する」と述べる。石井組合長は「事業に同意する旨を表明し、同事業の合意書を手渡した。」